

リハセンだより

**第70号****総論****あいさつ**

看護部長 佐々木 純子

当センターは1997年（平成9年）4月1日に開設され、診療開始時は5つの病棟（リハビリテーション50床、精神100床、認知症50床、計200床）と外来を稼働し、看護師124名が「看護科」としてスタートしました。それから四半世紀の歩みを進め、現在は「看護部」として看護師173名、介護福祉士20名、看護助手他12名が所属し、7つの病棟（リハビリテーション100床、精神100床、認知症100床、計300床）と外来の他、医療安全管理室、医療相談連携室に職員を配置しています。

当センターの看護方式はプライマリーナースングで、1人の患者さんに対して1人の看護師（プライマリーナース）が入院から退院までを一貫して担当します。親身に責任を持って看護を展開し、患者さんへ質の高いケアを提供することを目指しています。また、当センターには現在認定看護師が7名（感染管理1名、認知症看護2名、摂食嚥下障害看護1名、精神科3名）おり、それぞれが水準の高い看護の実践モデルとなり職員への指導・相談を行い、看護の専門性を高めています。「患者さんの権利の尊重を基本とし、身体やこころの障害を受け止めながら、その人らしさを失わず、生活の再構築ができるよう思いやりのある看護サービスに努めます」を看護部の理念に掲げ、看護職員全員で共有し、一人ひとりが理念を貫き、少しでも患者さんのQOL向上に繋げるお手伝いができるよう、日々取り組んでいます。

高齢化先進国である日本の高齢化率第1位の秋田県において、当センターが担う役割はますます重要になっています。「頼りになるリハセン」と県民から呼ばれるような病院を目指すため、看護部職員はその役割を認識し、多職種と協働してチーム医療に貢献して参ります。リハビリテーション・精神医療センターに入院して良かったという評価が頂けるよう、今後も24時間患者さんに寄り添い、努力していきたいと考えております。



びょうとう しょうかい 1病棟の紹介



1病棟師長 伊勢 由紀子

1病棟は30床の精神科開放病棟です。センターの一番端に位置し、病棟の中庭では、ツバメが飛び交う様子やチューリップなどの花々、病室の窓からは多くの木々が見られ、新緑～紅葉～雪景色の四季が感じられる療養環境となっています。

主に精神疾患・軽度認知症・神経変性疾患の患者さんが、心身の安静・休養、電気治療、認知症の精査・治療、社会復帰を目的に入院されています。アルコール依存症のアルコール教育や、うつ病の新しい治療として東北では唯一の反復経頭蓋磁気刺激(rTMS)療法を受ける患者さんも入院されています。超高齢化が進んでいる秋田県ではありますが、入院患者さんの平均年齢は65歳、年齢層は20代～90代と幅広くなっています。

1病棟看護師は、女性12名・男性5名の総勢17名、経験年数の幅広いスタッフが揃っており、患者さんをご家族が安全・安心に療養できる環境を整え、『あたたかい看護』を目標に、医師・精神保健福祉士・作業療法士・理学療法士・言語聴覚士・心理士・管理栄養士・薬剤師と連携を図り、患者さん個々に合わせたより良い看護の提供に日々取り組んでいます。

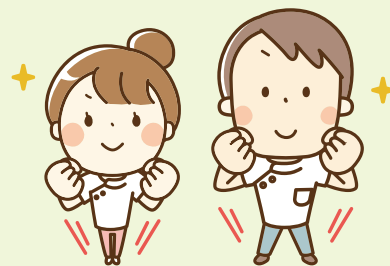
びょうとう しょうかい 2病棟の紹介



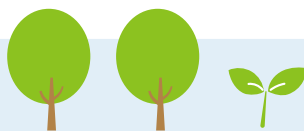
2病棟師長 竹園 輝秀

2病棟は30床の精神科閉鎖病棟です。看護師18名(令和4年3月1日現在)が在籍しており、20代の若手からベテランまで幅広い年齢層になっています。女性11名、男性6名で常にコミュニケーションをとりながら情報を共有し、皆で協力して患者さんの看護にあたっています。

以前は統合失調症や躁うつ病、神経症などの患者さんが多くいましたが、現在は半数以上が認知症の患者さんです。平均年齢も70歳近く、生活全般で介助を要する患者さんが増えています。そのため医師・看護師・精神保健福祉士・作業療法士・理学療法士・言語聴覚士・心理士・管理栄養士など多くの職種が協力して、様々な疾病や障害の精査や治療、日常生活の援助、身体機能の維持・回復、自宅や施設への退院に向けた調整を行っています。2病棟スタッフは患者さんの安全を第一に考え、そして笑顔を絶やさないことを心がけ、患者さんやご家族から信頼される医療・看護が提供できるよう日々努めています。



びょうとう しょうかい 3病棟の紹介



3病棟副師長 大友 智美

3病棟は40床の精神科救急入院料病棟です。急性期症状を呈する患者さんへ短期・集中治療を行うことで、早期退院・社会参加につながるように支援しています。また、秋田県精神科救急医療システムの全県の拠点病院として、365日24時間体制で救急患者さんを受け入れており、3か月以内での自宅退院を目指して看護を提供しています。40床のうち、個室20床、保護室4床を持ち、任意入院・医療保護入院・応急入院・措置入院・鑑定入院などを受け入れています。

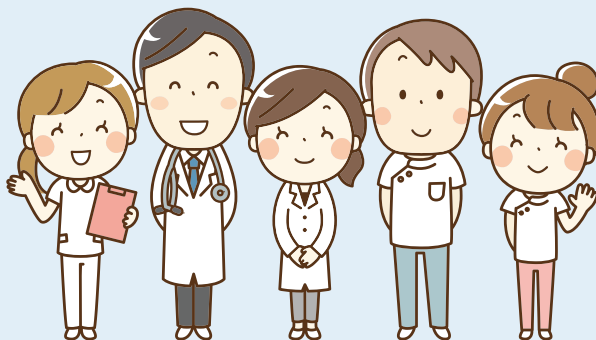
看護師は25名配属されています。半数以上は男性看護師ですが、新人からベテランまで幅広く配置され、全員で信頼しあい協力しながら、休日夜間救急にも対応しています。また、精神科認定看護師も配属されています。私たちは常に幅広い視野を持ち、素早く情報をキャッチし、自己研鑽を行うことで、資質の高い看護能力を兼ね備えながら、質の高い看護を提供しています。

患者さんは10代から90代と幅広く、統合失調症の急性期症状や重症うつ病、躁病、認知症、薬物中毒、思春期精神障害などで入院されます。その殆どは、精神症状による不穏、興奮が顕著な重度精神障がい者であり、自傷他害の恐れを有する患者さんも含まれますが、医師・看護師・精神保健福祉士・精神作業療法士・管理栄養士・薬剤師・臨床心理士など多職種で協働し情報を共有しています。入院直後から、多職種でのチーム医療を提供し、集中的な治療を行うことで、3ヶ月程度で回復され退院している方が7割以上を占めています。

また、再発防止へ働きかけながら地域と共にその人らしい暮らしを支援するための取り組みとして『自分の疾患と服薬の重要性を学習する服薬教室』『社会生活上での困り事に対する自分なりの対処方法を身につける訓練を行うSST(ソーシャルスキルトレーニング:社会生活技能訓練)』『再発防止を目的に、安定した状態の維持、また病状悪化の兆候がみられた際の自己対処と支援者の対応についての計画するクライシスプラン』を導入し、その人を支えるすべての人が情報を共有しています。

看護師は、積極的に研修受講しトレーニングを重ねることでスキルアップし、資格を取得することで、専門的知識を獲得しています。そのうえで、患者さんそれぞれが退院後にどう在りたいのか明確にしながら、個別性を捉え、寄り添いながら、地域で包括的に支援できるようにする環境を整え、スムーズな社会参加・地域移行できるようサポートしています。

患者さんの安全のために様々な制約がありますが、病棟内に中庭があることで、圧迫感なくゆっくりと休養できます。また、季節感や開放感を感じられるよう、掲示物も工夫しています。常に笑顔での対応を行い、患者さんの尊厳を守りながら、『安全・安心・働きやすい職場』作りを醸成することを目指し、患者さん中心の看護を提供できるように、日々頑張っている病棟です。



びょうとう しょうかい 4病棟の紹介



4病棟師長 安藤 晋

4病棟は50床の回復期リハビリテーション病棟です。脳血管障害・神経疾患・脊髄損傷等の障害を持つ患者さんに対して、急性期病院退院後に引き続き、入院による集中的リハビリテーションサービスを提供しています。



回復期リハビリテーション病棟ではその目的を、「日常生活動作能力の向上」「寝たきり防止」「家庭復帰」とし、医師・看護師・理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・臨床心理士・ソーシャルワーカー・薬剤師・管理栄養士がリハビリテーションチームを作り医療の提供を行っています。また現在は毎日リハとして土、日、祝日も訓練を行っています。日々の生活にもリハビリテーションを取り入れ、障害を持ちながらも、自分らしい生活ができるよう計画されていることが特徴です。リハビリテーションチームは、カンファレンスを強化し、共通認識に基づき目標を定め、それぞれの専門性をフルに発揮しています。広い廊下・病室や個人に合わせた器具・機械が提供できるよう施設環境も整えられています。スタッフの明るさ・元気が生活の再構築に、パワーを与えることのできる病棟です。

びょうとう しょうかい 5病棟の紹介



5病棟師長 堀江 美智子

5病棟は50床の慢性期リハビリテーション病棟です。脳血管障害・神経疾患・脊髄損傷・骨折術後などの患者さんを対象に家庭や社会への復帰を目指し、身体能力の維持向上を目的として慢性期リハビリテーション（以下リハビリ）を提供しています。

国内高齢化率1位の秋田県であることから、当病棟入院中の患者さんの平均年齢は年々高くなってきており、現在は70歳程度となっております。リハビリは訓練室でのみ行われるものではなく、日常生活動作の全てがリハビリですので、医師・看護師・理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・公認心理士・ソーシャルワーカー・管理栄養士・薬剤師などで連携をとりながら、患者さんの退院後の生活をも見据えて、少しでも生活の質（QOL）を高めることができるように取り組んでいます。

また、スタッフは感染対策をとりつつも、患者さんやご家族とのコミュニケーションを大切にし、面会や家族指導を行うように心がけております。感染拡大の際にはタブレット端末を使用し家族との面会を実施しています。

退院先を考える時は、患者さんの状態が多岐にわたることから「この場合はどうすればよいか？」と常に個別に考え、それぞれに最良と思われる方法で地域の支援を受けていけるよう、検討することに努めております。私たちは病棟での安全な療養環境の提供、患者さんの健康管理、ご家族への支援など、今後もチームワークを大切に取り組んでいきたいと思っております。少しでも回復していく患者さんのすがた、笑顔で退院される様子は私たちにとって何よりも喜びです。

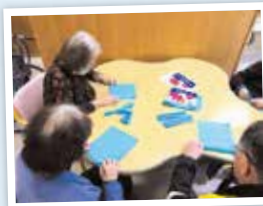
びょうとう しょうかい 6病棟の紹介

6病棟副師長 鈴木 陽子

6病棟は50床の認知症閉鎖病棟です。認知症の初期から重度まで、あらゆる心理・行動症状を呈する患者さんを対象に、MRIやSPECT、心理検査などによる精査・早期診断・治療と認知症リハビリテーション(集団作業療法・小集団作業療法・回想法)を行っています。看護師・介護福祉士・看護助手の配置で、各職種の専門性を活かし様々な心理・行動症状を呈する患者さんに対し、疾患や身体機能を評価し、個別性のある看護支援と安全な療養環境の提供を行っています。

主な取り組みとして、

- ①疾患の特性を理解し、様々な心理・行動症状に対して肯定的な態度で接し、話題や気分転換を図っています。
- ②認知症患者の急性及び重篤な身体疾患に対して、予測性を持った観察と判断力で適切な処置を行い、病状の進行の予防に努めています。
- ③精神作業療法士と連携し集団療法・レクリエーション・散歩などを積極的に行い、残存機能を活かすようリハビリテーション的アプローチを心掛けています。
- ④介護福祉士が中心となり、アクティビティ・ケア(下記7病棟参照)を通して心身の機能維持・向上と活気ある日常生活の提供に努めています。
- ⑤身体障害や日常生活能力に障害のある患者さんの事故防止のための安全対策と環境整備に努めています。
- ⑥個々の生活背景・残存機能評価による個別性のある看護支援と家族指導を行っています。



びょうとう しょうかい 7病棟の紹介

7病棟師長 高橋 聡子

7病棟は、6病棟と同様で認知症閉鎖病棟です。精神科領域の病棟で重度の認知症の方が多く、症状別では特に、幻覚・妄想・誤認、睡眠障害がある患者様が多く入院されています。次いで興奮・易怒性や暴言・暴力等があり、その症状を緩和できるよう、日々ケアしております。各スタッフが疾患の特性を理解し、様々な心理や行動症状を持つ患者様に対して注意や説得はせず、肯定的な態度で接しています。また、ご家族と情報を共有するため、受け持ち看護師が中心となり、定期的に患者様の病状や、過ごし方をご家族へご報告し、患者様自身やご家族のニーズに合わせた対応をこころがけています。その他には、多職種・家族参加型のパスカンファレンスを通じてインフォームドコンセントを充実させ、治療方針の決定や退院支援を行っています。多職種との連携は重要です。例えば、機能回復に向けた理学療法、精神療法の一環としての作業療法などがあります。また介護福祉士が主体となったアクティビティ・ケア(楽しむ体験等を通して生活リズムの維持・向上に努めるケア)を行ったり、心理担当スタッフによる回想法が行われます。回想法では昔の写真や思い出の品などを見たり、実際に触れたりしながら昔の経験や思い出を語り合います。認知症の方は最近の出来事はすぐに忘れてしまいますが、幼少期や学生時代などの昔のことは良く覚えています。

私たち7病棟スタッフは、倫理的配慮についても常に念頭に置き、療養環境においては十分配慮し、少しでも快適に入院生活が送れるように調整しております。



せいしん わす リハ、精神、もの忘れ

外来師長 伊藤 美佐子

<概要>

外来には看護師8名、歯科衛生士1名、看護事務補助者1名、クーク2名のスタッフが配置されています。外来診療科はリハビリテーション科・精神科・認知症もの忘れ科があります。外来診療は予約制となっております。初めて受診される方は予め電話で予約が必要です。また現在他の病院などにかかっている方は、紹介状をご用意ください。



・リハビリテーション科

脳血管障害、神経疾患、変性疾患、脊髄損傷、神経難病などの障害を持つ方々が通院されています。通院の目的としては、再発予防のための基礎疾患と危険因子の治療、維持的機能訓練と機能レベルの評価、疼痛や痙性の治療、装具の調整、障害を抱えながらの社会生活への支援などです。

・精神科

統合失調症、うつ病、躁うつ病、神経症、アルコール依存症、パーソナリティ障害などの方が通院されています。病状によって待合室で待つことが出来ない方、幻覚・妄想状態で不穏となる場合など、病状に合わせた環境提供が必要となるため瞬時の判断が要求されます。また緊急（暴言・暴力）時には素早い対応ができる体制を維持できるよう毎年研修を実施しています。

・認知症もの忘れ科

アルツハイマー型認知症、レビー小体型認知症、脳血管性認知症、前頭側頭型認知症、高次脳機能障害の方が通院されています。認知症の場合、ようやく受診にたどり着くケースも少なくなく、患者のみならず家族の介護の苦勞を察し、労う心配りがとても大切になります。様々な社会資源の知識も乏しく活用方法を知らずに苦勞しているご家族が多く、専門知識のある医療相談員への橋渡しの役割も担っています。

<外来看護方針>

看護部理念に基づいて、心温かな病院作りをめざしています。

外来は病院の顔という表現をするほど大切な役割があります。患者・家族は私たちが思っている以上に不安と期待を抱き受診されます。その患者・家族一人一人の気持ちにいかに関わり添えるかが外来看護師の使命であり、要求されることだと思います。その基本が接遇にあると思います。定期的に接遇の勉強会を開催、客観的指標としてサービス向上委員会主催で2年毎に外来患者満足度調査を実施しております。不満、やや不満の項目は外来会議などで対策を考え改善につなげています。

外来診療ではどうしても待ち時間が発生してしまいます。診察・訓練・検査・処置を効率よく施行し、待ち時間が出来る限り短縮できるよう配慮しています。また待ち時間を利用して事前に情報を収集し、診察がスムーズに行えるよう診療介助に臨んでいます。それでも待ち時間は発生します。患者・家族の了解を得て、連絡先をお聞きし車での待機など他の場所で待っていただくような工夫をしております。

私たち外来スタッフは診療介助、家庭や職場に於ける問題解決への援助や疾病の悪化を防止するためのケアの方法を提供し、セルフケア能力やQOLの維持・向上に向けての支援を提供していきたいと思っています。

なお、入院患者さんのみを対象として、特殊外来（耳鼻科、循環器科、整形外科、泌尿器科、歯科、眼科、消化器科、脳外科）がありますが、詳細は省略させていただきます。

＊ とう じゅ しん よ やく にゅういんもうし こ 当センターの受診予約・入院申込みについて

当センターのリハビリテーション科、精神科、放射線科、もの忘れ外来は全て予約制になっております。現在受診している医療機関がある場合は紹介状をご準備いただき診療予約をしたうえで来院して下さい。

また、当センターではFAXによる入院予約申込み（リハビリテーション科のみ）も受付けております。初めてFAXによる入院予約を希望される場合は「医療相談連携室」までご相談下さい。

（外来受診・FAX入院予約に関する申し込み・問い合わせ先）

TEL 018-892-3751（代表）医療相談連携室まで

FAX 018-892-3816（医療相談連携室）

＊ のう にん ち しょう 脳・認知症ドック

脳・認知症ドックとは、MRI等の検査によって脳疾患及び認知症の有無をチェックする健診です。健診とその検査結果の説明は同日中に担当医から行われます。

検査日：毎週金曜日（予約制） 午前8時30分～午後0時30分

脳・認知症ドックのご予約、費用などのお問い合わせは

TEL 018-892-3751（代表）医事課まで

FAX 018-892-3759（医事課）

検査内容

血圧測定、体組成（身長、体重、BMI）、腹囲測定、尿検査、血液検査、胸部X線撮影、頭部MRI、心電図、血圧脈波、頸部エコー、認知機能検査

がいらいしんりょうたんとうひょう 外来診療担当表

外来診療受付時間 午前 8:30～11:00



【リハビリテーション科】 ※脳ドック…金曜日（午前）

	月	火	水	木	金
新 患	境 梨 沙	宮田 美生(午後)(隔週)	—	横 山 絵里子 荒 巻 晋 治	—
再 来	荒 巻 晋 治 境 梨 沙	佐山 一郎(隔週) 宮田 美生(午後)	横 山 絵里子	—	—

【精神科】

	月	火	水	木	金
新 患	小 林 祐 美 井 野 志保里	須 田 秀 可	小 畑 信 彦 向 井 長 弘	成 田 恵理子	倉 田 晋
再来 1	倉 田 晋	小 畑 信 彦	兼 子 義 彦	倉 田 晋	小 畑 信 彦
再来 2	須 田 秀 可	佐 藤 隆 郎	須 田 秀 可	向 井 長 弘	成 田 恵理子
再来 3	成 田 恵理子	向 井 長 弘	井 野 志保里	小 林 祐 美	小林 祐美(隔週)
再来 4	兼 子 義 彦	吉 沢 和 久	吉 沢 和 久	—	井 野 志保里
クロザリル外来	—	—	倉 田 晋 向 井 長 弘	—	—
午後救急	井 野 志保里	向 井 長 弘	須 田 秀 可	成 田 恵理子	小 林 祐 美

【もの忘れ・高次脳機能障害・若年性認知症外来】

	月	火	水	木	金
新 患	佐藤 隆郎(精神科)	笹嶋 寿郎(リハ科)	佐藤 隆郎(精神科)	下村 辰雄(リハ科)	兼 子 義 彦 小林 祐美(隔週)(精神科)
再 来	—	下村 辰雄(リハ科)	下村 辰雄(リハ科)	—	
		佐藤 隆郎(精神科)	佐藤 隆郎(精神科)		
		笹嶋 寿郎(リハ科)	—		
高次脳機能障害	—	—	—	—	下 村 辰 雄
若年性認知症外来	—	—	—	—	下 村 辰 雄

【特殊外来】

		月	火	水	木	金
午	前	整 形 外 科	—	—	耳鼻咽喉科	眼 科(第2)
午	後	循 環 器	耳鼻咽喉科	—	消化器科	—
			消化器科(月2回)		泌尿器科(第1,3)	
			脳 外 科(第3)			

【歯科訪問診療】

	月	火	水	木	金
午 後	—	—	—	歯 科	—

令和4年3月現在 ※4月以降変更があり得ますので、ご了承ください。



あき た けん りつ

せい しん い りょう

秋田県立リハビリテーション・精神医療センター

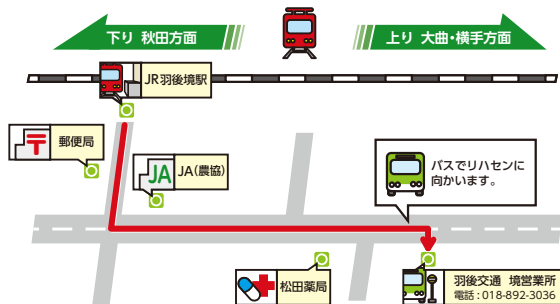


電車とバスでリハセンに来るには

2021年4月現在



1. JR 奥羽本線、羽後境駅で下車。
2. 徒歩で羽後交通境営業所に向かいます。(約3分)
3. 羽後交通境営業所から淀川線でリハセン経由「福部羅行き」に乗ります。
4. 羽後交通境営業所からリハセンまで約10分。リハセン玄関前のバス停で下車。



バス時刻表

(2021年4月1日現在)

淀川線 (境～協和小学校～リハビリセンター～中逢田～下川口～福部羅)			
境 営業所	リハビリセンター	リハビリセンター	境 営業所
発	着	発	着
8:10	8:20	—	7:52
▲ 9:15	▲ 9:25	7:38	7:54
10:20	10:30	9:18	9:28
▲ 11:14	▲ 11:30	▲ 9:30	▲ 9:40
12:25	12:41	11:28	11:38
▲ 14:15	▲ 14:31	▲ 12:28	▲ 12:44
15:15	15:31	13:41	13:51
▲ 16:15	▲ 16:31	▲ 15:36	▲ 15:46
17:20	17:36	16:36	16:46
▲ 18:34	—	▲ 17:36	▲ 17:46
▲印は土・日・祝運休		18:36	18:46

所要時間と料金

JR上り	JR下り	バ ス
秋田駅～羽後境駅 約25分 運賃510円	大曲駅～羽後境駅 約24分 運賃420円	境営業所～リハセン前 約10分 運賃330円

秋田県立リハビリテーション・精神医療センター診療情報

診療科目：リハビリテーション科、精神科、放射線科
診 療 日：月～金（祝日・12月29日から1月3日を除く）
受付時間：午前8:30から11:00まで

病 床 数：一般病床:50床、療養病床:50床、精神病床:200床

●センターの特徴：365日毎日リハビリ訓練
脳・認知症ドック・物忘れ外来
画像診断(CT・MRI・SPECT)
日本医療機能評価機構認定

相談のご案内

リハセンへの受診や入院に関することについて、
電話やFAXでの相談に応じております。
お気軽にどうぞ。

発 行
秋田県立リハビリテーション・
精神医療センター
〒019-2492
秋田県大仙市協和上淀川字五百刈田 352
TEL:018-892-3751 (代表)
FAX:018-892-3757 (総務管理課)
発行責任者 下村 辰雄